Linux 35 年の歩み

今日、Linuxは40億台のAndroidデバイス、年間3,000万台のChromebook、2億台以上のサーバー、スーパーコンピューターのトップ500のすべて、そしてAppleの5Gモデムを支えています。



Linuxは自動車、世界中の証券取引所、家庭用電化製品、エレベーターやコンベアベルトなどの産業機器、さらには人工衛星や宇宙インフラを動かしています。



Linuxカーネルには1時間あたり約10件の変更が加えられ、8〜9週間ごとに新しいリリースが公開されています。





カーネルは引き続き新たな開発者を惹きつけており、7.0〜7.2の各リリースでは、初めてコントリビューションを行った開発者の数で記録を更新しています。

2026年の初めの2四半期には、各四半期で4,200人を超えるコントリビューターが参加し、継続的な改善を続ける、活発な開発者層が確保されています。

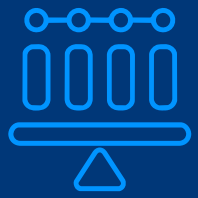




2026年半ばの時点で、131人の個人のコントリビューターがコントリビューション全体の51%。また、7つの組織が51%を占めていました。これはコントリビューターの多様性の高さとレジリエントな開発プロセスを示しています。

現在、全Linuxのコントリビューションの80%以上は企業のエンジニアによるものであり、Google、Ericsson、Fujitsu、Intel、Meta、Huawei、Samsung、SUSEなどの企業が協調して取り組んでいます。





2026年のコントリビューターの50%以上が複数四半期にわたって継続的にコントリビューションしており、コミュニティは安定した、参加意欲が高い状態にあることを示しています。

カーネルのソースコード開発は、「バージョン管理導入前」、「BitKeeperの時代」、「Gitの時代」という3つの段階を経て発展してきました。こうした移行のたびに、プロジェクトはより複雑かつ成熟したものになって行きました。



Linuxは、レビュー主導型のコラボレーションを先駆的に導入し、開発における透明性の高い分散型ワークフローであるGitを生み出すことで、現代のソフトウェアエンジニアリングに革命をもたらしました。



Linuxは事実上すべての主要な視覚効果（VFX）レンダーファームを支えており、ValveのProton互換レイアを通して異なるアーキテクチャ間でのPCゲームプレイを可能にしていています。



世界の証券取引所や銀行は、低遅延取引、リスクモデリング、そしてオープンソース サプライチェーンの強靭性確保といった目的で、Linuxを活用しています。



Copyright © 2026 **The Linux Foundation** | 2026 年 10 月 . 本レポートは、**Creative Commons Attribution-NoDerivatives 4.0 International Public License** の下でライセンスされています。
インフォグラフィックを使用する際は、本調査レポートを引用してください。引用に関するガイダンスは、レポートの裏表紙をご覧ください。

Linux 35 年の歩み

Linuxは、チップメーカー各社に対して、Wi-Fi関連の規格をオープンにするよう促しました。その結果、Linuxは、世界中のセルラーモデム、家庭用ルーター、そして企業向けアクセスポイントを支える基盤へと成長しました。



ヘルスケア分野では、組み込みLinuxが国際的な安全認証規格を遵守しながら、医療機器、診断ツール、ゲノム研究を強力に支えています。



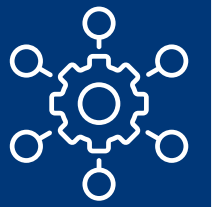
自律型宇宙ミッション、衛星コンステレーション、商用飛行ドローンなどでは、リアルタイムの航法アルゴリズムを実行し、複雑なテレメトリ処理を行うためにLinuxが利用されています。





Automotive Grade Linux（AGL）は、安全重視のソフトウェアに対する長期サポートを備えた協調的フレームワークのもとで統合された車両ソフトウェアスタックを提供しています。

Linuxの安定性、カスタマイズ性、拡張性は商用プロプライエタリー市場を大きく変革し、現在では主要なWebサイト、メインフレーム、サーバー、モバイルデバイスの大部分がLinuxによって動作しています。





クラウドネイティブのイノベーションは、Linuxカーネルに直接組み込まれた中核的なプリミティブによって実現され、それらは現代のソフトウェアワークロードに欠かせないランタイムとなっています。

リアルタイムカーネル機能とハードウェアポータビリティのおかげで、Linuxはローカルエッジデバイス、地域データセンター、5G基地局の領域を席巻しています。





Linuxは、計算負荷の高い並列化されたAIワークロードを支えるべく進化を遂げてきました。それと同時に、AI関連のツール群は、カーネルの保守、パッチのレビュー、バグの検出といったプロセスを大きく変革しました。

Linuxカーネルの非公開セキュリティ メーリングリストにAIが生成したパッチが大量に投稿されたことを受け、脆弱性報告の基準を明確化し、AIボットによる投稿を制限するよう関連文書が更新されました。



Linuxコミュニティは、主要な脆弱性クラスを排除するためにKSPPを立ち上げて予防的な構造型防御を組み込むとともに、メモリ安全性を確保するドライバー開発に向けてRustを採用しました。



LF Mentorshipプログラムは、奨励金、ウェビナー、メンターシップを通じて参入障壁に対処し、オープンソースの多様性、技術的スキル、およびソフトウェア工学における「人」の側面を育成しています。



利用しやすいデジタル決済、農業ツール、クリーンエネルギー、グローバルな接続性を可能にすることで、Linuxカーネルは世界中の何百万人もの人々の重要な日常生活を静かに支えています。



Copyright © 2026 **The Linux Foundation** | 2026 年 10 月 . 本レポートは、**Creative Commons Attribution-NoDerivatives 4.0 International Public License** の下でライセンスされています。
インフォグラフィックを使用する際は、本調査レポートを引用してください。引用に関するガイダンスは、レポートの裏表紙をご覧ください。